

新学習指導要領・社会科における育成すべき資質・能力の具体化について

研修・支援部 研究員 伊藤大二郎

研究の目的

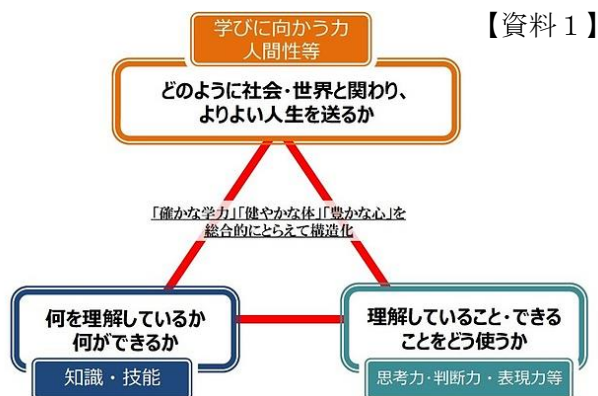
社会科は、様々な社会的事象を通して、多くの資質・能力を身に付けなければならない教科である。しかし、「社会科＝暗記教科」という認識が非常に強く、「知識重視の授業」が現場で多く見られるのが現状である。そのため、「社会科＝暗記教科」という考えから脱却するとともに、必要となる資質・能力を身に付けさせるために、どのように授業構想を行うのがよいかを提案する。

研究の方法

- ①学習指導要領（平成 29 年告示）の読み解き
- ②公民的分野を例にした単元構想

結果 1

上記のように、「知識重視の授業」が現場で多く見られる。しかし、学習指導要領（平成 29 年告示）では、社会科の目標（ねらい）を 3 つの柱で整理しており（【資料 1】はイメージ図）、これらの資質・能力をバランスよく生徒に身に付けさせることが求められる。社会科における「知識重視の授業」は、もはや時代遅れである。



また、学習指導要領を読み解き、指導事項を理解し、ゴールとなる生徒像を意識した授業構想が必要となる。いわゆる、生徒が「何ができるようになるのか」を意識した授業構想である。

結果 2

社会科で必要となる資質・能力を育むためには様々な工夫が必要となる。学習指導要領（平成 29 年告示）の 196 ページには、「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力

の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。」と記されている。1 時間ごとに授業構想を行うのではなく、単元を一つのまとまりとして授業構想をし、その単元を通して資質・能力を育むことが必要である。

公民的分野を例に、単元構想を行い、授業案を示すこととする。単元は、「人権と日本国憲法」である（【資料 2】を参照）。



ここでは、「どのような考えや思いをもとに、日本国憲法は制定されたのだろうか？」という単元を貫く問いを設定する。その問いに取り組むために、それぞれの時間に設定した学習課題（【表 1】を参照）を解決し、そして、資質・能力を育む。

時数	学習課題
第 1 時	なぜ、「人権」を守るきまりがつくられたのだろうか？
第 2 時	なぜ、法律に基づいて政治が行われることが大切なのだろうか？
第 3 時	国民主権とは、どのような考えなのだろうか？
第 4 時	日本の平和主義の在り方とは何だろうか？

【表 1：各時間の学習課題】

今後の方向性

学習指導要領の読み解きは、引き続き行っていきたい。また、初任者研修を担当していることから、初任者にも協力を求め、実際の生徒の姿をもとに分析を進め、よりよい授業構想の在り方を求めていきたい。

京都府総合教育センター 研修・支援部 研究主事兼指導主事 島田 祐里

1) 【問題意識】

国語科の評価規準は5観点であるが、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の3観点は、教材ごとの主たる領域に合わせて1つのみ表記されるのが基本である。しかし、未だ十分に理解されていない。

2) 【研究の目的】

高等学校学習指導要領（国語科）の「授業時数の目安」に基づいて年間学習指導計画を作成し、教材ごとの評価規準を作成する。その中で、年間学習指導計画の改善点や観点別評価について考え、初任者研修の教科教育に生かす。

3) 【研究の方法と結果】

※領域の3観点で検証した。

○：明記あり ▲：明記はないが内容あり
×：不十分 空欄：明記も内容もなし

【方法】

【結果】

高等学校で実際に
使用されている年間
学習指導計画の分析
(A～Jの10校)

- ・領域の配分が「読むこと」に偏重
- ・「単元の目標」の記述が不十分
- ・教材ごとの「評価規準」で0～3領域の観点が設定されている
- ・「指導事項」の記述がない

(表ア)

(中学校：5社)

- ・領域が明確でバランスよく配分されている
- ・「単元の目標」と「指導事項」を明記
- ・教材ごとの「評価規準」は、ほぼ1領域

(表イ)

(高等学校：9社)

- ・「単元の目標」は明記
- ・「指導事項」は、ほぼ半数に明記
- ・他は、ほぼ①と同様

(表ウ)

【①②を踏まえた着目点】

- A：領域をバランスよく配置する
- B：「指導事項」「単元の目標」を明記する
- C：教材ごとの「評価規準」は基本的に1領域とし、「指導事項」「単元の目標」と対応させる

合」の年間学習指導
計画の作成

表 ア	高等学校 年間学習 指導計画	A	B D H I	C	E	F	G	J
	単元の目標	▲	▲	×	▲	○	▲	▲
	言語活動（例）				○			
	評価規準 （領域の観点数）	1～3	×	×	3	×	0～3	2～3
	指導事項			記入なし				

表 ①	教科書（中学校） 年間学習 指導計画	ア社	イ社	ウ社	エ社	オ社
	単元の目標	○	○	○	○	○
	言語活動（例）	○	○※	○	○	○
	評価規準 （領域の観点数）	1	1	1	1	1～3
	評価規準例（A～C）	○	○			
	指導事項 ※一覧有	○※	○	○※	○※	○

表 ウ	教科書（高校） 年間学習 指導計画	ア 社	イ 社	ウ 社	カ 社	キ 社	ク 社	ケ 社	コ 社	サ 社
	単元の目標	○	○	○	○	○	○	○	○	
	言語活動（例）		○	○		○				
	評価規準 （領域の観点数）	1	1～ 2	1～ 3	1～ 3	1	1～ 2	1～ 3	1～ 2	1～ 2
	指導事項 ※一覧有	○	○ ※	○		○ ※	○			

「国語総合」年間学習指導計画例（1学期後半）

月	領域	指導事項	教材	単元の目標	評価基準				
					関心・意欲・ 態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力	知識・理解
5月	書くこと	B（書くこと） ア	【表現】 十七歳からのメッセージ	目的に応じて題材を選び、文体や語彙を工夫して書く。	目的に応じて題材を選び、適切な表現の仕方を用いることとしている。	目的に応じた題材を選び、適切な表現の仕方で行っている。		書くことに必要な文体や語句について理解している。	
	読むこと（漢文）	読むことエ【事項】 ア（イ）	【本文】 漢夫・矛盾・朝二暮四	・書き手の意図を捉える。 ・訓読の決まりを理解する。	故事成語の成り立ちを成語、意味を正しく理解し、説明しようとしている。	故事成語の成り立ちを知り、意味を正しく理解している。	故事成語の成り立ちを知り、意味を正しく理解している。	訓読の決まりを理解している。	
6月	読むこと（古文）	C読むことウ【事項】 ア（イ）	【古文】 徒然草「丹波に出るころあり」	・情景や心情を読み味わう。 ・文脈の用意を理解する。	情景や心情を表現に即して読み味わおうとしている。	情景や心情を表現に即して読み味わっている。	情景や心情を表現に即して読み味わっている。	文脈の用意を理解している。	
	読むこと（現代文）	C（読むこと） ア・エ	【評論】 水の東西	書き手の意図を捉える。	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えようとしている。	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えようとしている。	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えようとしている。	文章の構成や展開を理解している。	
7月	話すこと・聞くこと	A（話すこと・聞くこと） ア【事項】 イ（イ）	【スピーチ】 日本と西洋で感じる違い、考え方	自分の考えを持ち、具体例や根拠を示して意見を述べる。	・話題についてさまざまな角度から検討した自分の考えを持つこととしている。 ・具体例や根拠を示して、意見を述べている。	・話題についてさまざまな角度から検討した自分の考えを持つこととしている。 ・具体例や根拠を示して、意見を述べている。	・話題についてさまざまな角度から検討した自分の考えを持つこととしている。 ・具体例や根拠を示して、意見を述べている。	自己評価や相互評価を通して、内容の表現の仕方について理解している。	

年間の指導事項一覧（領域）

(表)	A話ごと ・聞くこと	B書くこと	C読むこと				伝統的な書簡・文化・新聞 特質に関する事項		
			ア	イ	ウ	エ		オ	ア
漢字									○
漢語のカタカナ転写									○
随想	ふだに、あるたてでな い					○			
古文	源の物語							○	
小説	源氏物語								
フィクション	17世紀のロマンセージ		○						
漢文	故事成語							○	○
古文	漢書						○		
評論	水の害害					○			
スピーチ		○							○
経典文	一行大貴					○			
古文	土佐日記								
評論	「ネットが損ずる社会の境 論理的な文章を書く」					○			
漢文	漢語								
フィクション	デパート	○							
古文	伊勢物語								
評論	ものごととことば								
投書	新聞の投書				○				
紹介	百人一首								
漢詩	「唐詩				○				
小説	源平の本								○
手紙	手紙を書く		○						

4) 【考察】

(表①②)は「国語総合」数研出版をもとに作成)

(表工)より

- ・領域のバランスを考えて作成するため、領域を項目の最初に置く。
- ・指導事項を領域の次の項目に置き、単元の目標や評価規準の作成時に活用する。
- ・評価規準は基本的な形で作成し、学校や生徒の状況に応じて具体化する。
- ・観点別評価規準の作成には、学習指導要領などの資料を活用する。

(表④)より

- ・領域のバランスを考える。
- ・指導事項は1年間の中でバランスをとるが、3年間の見通しも持って作成する。

初任者研修
に生かした
こと

高等学校では、令和４年度から新学習指導要領が段階的に実施される。そこでまず、現在、各校が使用している年間学習指導計画の改善を図りたい。特に、大きく変わる「評価規準」については、学習指導要領や「学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所等）などを活用する方法を伝えたい。

【参考資料】

- ・「高等学校学習指導要領解説 国語編」（平成22年6月 文部科学省） ・「学習指導と学習評価に関する意識調査」（平成29年文部科学省委託調査）
 ・「学習評価に関する資料」（文部科学省第3回総則・評価特別部会資料）
 ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」「学習評価の在り方ハンドブック高等学校編」（国立教育政策研究所）
 ・「高等学校国語科の年間指導計画の有用性を高めるための工夫」（大滝一登）
 ・教育出版・三省堂・東京書籍・光村図書・学校図書・桐原書店・数研出版・大修館書店・第一学習社・筑摩書房・明治書院の年間学習指導計画
 ・綴部（定時刻）・東京・大井・島岡・京都すばる・京都八幡・嵯峨野・城陽・宮津・峰山・洛水 各高等学校の年間学習指導計画

小中高の接続を意識した外国語による言語活動の具体

研修・支援部

外国語チーム

大槻・長島・田中

1 言語活動の重要性

...外国語における教育改革の動きが加速するなか、小中高それぞれの現場において、必然性のある場面設定、即興的な言語使用の指導や**言語活動**の工夫等が求められている。
(中学校学習指導要領より抜粋)

言語活動とは、実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動

(文部科学省 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックより抜粋)

外国語活動

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、**言語活動を通して**、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

小外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、**言語活動を通して**、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

中外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、**言語活動を通して**、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次の通り育成することを目指す。

高外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、**言語活動及びこれら**を結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次の通り育成することを目指す。



英語は用いているが、**考えや気持ちを伝え合う要素がない活動**

日本語だけで情報を整理しながら考えなどを形成し**英語を全く用いていない活動**

(初等教育資料 令和元年5月号 直山木綿子視学官)

2 言語活動に対する課題意識

- ・「必然性」のある活動の設定
- ・ゲーム活動だけで終わらない授業づくり

- ・ゴールを見据えた単元計画
- ・ワークシート、ICTの活用
- ・言語活動と練習活動をわける
- ・相手意識を育てる工夫

- ・リテリング、サマリーの見直し
- ・オールイングリッシュの捉え方
- ・暗記、パターンプラクティスからの脱却
- ・思考を伴う活動の工夫
- ・「話す」→「書く」へ

※ 各種研究会、校内授業、センター研修、出前講座等でみられた、現場教員の共通した課題意識

3 効果的な言語活動の具体

○小学校

5年生 We Can! 2 文部科学省
Unit 5 She can run fast.
He can jump high.

めあて：できること、できないことの言い方を知ろう。



(令和元年度京都府小学校教育研究会外国語教育研究大会
於：京丹後市立島津小学校)

○中学校

2年生 New Crown New Edition 2 三省堂
Lesson 7 Presentation

めあて：本文の内容を聞いたり、読んだりして内容を理解し、会話文の続きを作ることができる。



(令和元年度「生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業」
於：向日市立西ノ岡中学校)

○高等学校

3年生 POLESTAR English
Communication III 数研出版
Lesson 6 How to Make Japan "Cool".
Lesson 9 World Heritage Sites: Not Always a Good Idea?
Lesson 8 Questions without Correct Answers

めあて：地域の未来像の実現につながる活性化策について意見を伝え合うとともに、グループで合意形成をする。



(第69回全国英語教育研究団体連合会総会 全国英語教育研究大会
於：三重県総合文化センター)

4 小中高の接続のポイント

①題材やパフォーマンス課題の系統性

- ・教科書の題材、言語材料をつなぐ
- ・次の学年で同じ課題を実施

②京都府版CAN-DOリスト(案)の活用

- ・児童生徒の具体的な姿をイメージ
- ・目指す姿を明確にした指導

③効果的な言語活動の実践を周知

- ・公開授業の参観
- ・合同研修会の実施
- など

もので始まりもので終わる理科授業の提案

地域教育支援部 研究員 荻野 光一

概要

京都府の初等理科教育において、観察・実験の少ない学校は全国平均と比較して多く、理科好きの生徒の割合は全国平均と比較して少ない。また、日本を他国と比較すると、理科授業は落ち着いた雰囲気で行われているのに関わらず、理科の有用性を感じる生徒の割合はかなり低い。

理科好きの生徒の増加や理科を主体的に学ぶ姿勢の育成につながる1つの方法として「もので始まりもので終わる授業形態」を提案したい。単位時間ごとに、導入と終末において「もの」を準備する意義について考察する。

ポイント

- ✓ 「単位時間の導入と終末それぞれに実物や写真、動画、模型、モデル実験等の教材を使用する」という条件で授業を立案する。
- ✓ 授業中に見方・考え方をはたらかせる機会を増やすこと、授業者の授業力向上(単位時間ごとの授業計画)の2つをねらいとする。

導入における具体例

『小学校第5学年 A物質・エネルギー』

(2)振り子の運動 振り子が1往復する時間』

振り子時計(動画でも)が動く様子を見せた後、糸と数種類のおもりを渡し、できるだけゆっくり(または速く)振れる振り子をつくる。

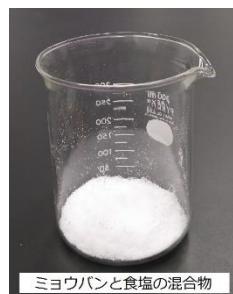


条件制御して関係性を見だしていく実験につながる発言や授業者の発問が誘導される。

『中学校第1学年 1分野 身のまわりの物質』

3章:水溶液の性質「物質のとり出し方」』

硫酸カリウムアルミニウムと塩化ナトリウムを混合し、分け方を考える。



ミョウバンと食塩の混合物

- ✓ 温度による溶解度の違いについて振り返るきっかけを与える。
- ✓ 2種類の物質の違いを、溶解度曲線を用いて説明する活動につながる。
- ✓ 再結晶の実験操作を行うきっかけとなる。

導入において提示する教材にはいくつかの意義がある。

例のように、活動から変数に気付かせたり、既習事項を振り返らせるきっかけとしたりする他に「認知的葛藤を起こさせる」、「科学的な興味関心を高める」、「ゲームや模型等を用いたモデルの提示によりその後の理解を促進する」こと等が考えられる。

終末における具体例

『小学校第6学年 A物質・エネルギー』

1:ものが燃えるとき ②ものが燃えるときの空気の変化』 石油や灯油等の燃焼実験提示と火力発電の簡単な説明



本単元で身につけさせたい粒子の概念だけでなく、燃焼の利用について知ること、エネルギー変換や環境問題について考えるきっかけをつくる。

『中学校第3学年 1分野 化学変化とイオン』

1章:水溶液とイオン「水溶液にすると電流と通す物質」』 害獣対策の電気柵漏電による事故の新聞記事の紹介

生徒によっては葛藤が起こるが、微量の電解質が溶けているという理解につながることで、身近な「水」に対する関心を高める。

終末においては、まずメタ認知を促す振り返り活動が重要であるが、特に単元終末の場合は生活との関連づけを行いたい。有用性を感じさせることを目的とせず、身近な事物や現象に「より豊かで確かな見方・考え方」で向き合う機会をつくりたい。その他に「新たな疑問を感じさせ次時へつなげる」、「追究させるため実験で使用した器具を用いる」こと等が考えられる。

考察

理科は、見方・考え方をはたらかせて様々な現象を観察し、それについて考察する中で資質・能力を育む。そして得た資質・能力によって新たな見方・考え方ができるようになり、それをはたらかせて観察を行うことができる。身近な事物や現象に「より豊かで確かな見方・考え方」で向き合う機会、個人の生活環境によってはなかなか得られない場合があるため、授業の中でその機会を多く設定することには価値があるだろう。実験頻度の増加にはつながらないかもしれないが、理科の見方・考え方をはたらかせる機会を保障できるのではないか。

背景・参考

- ✓ 京都府の初等理科教育において「観察実験は全国平均と比較して少ない。(過1回理科室で観察・実験を行う学校は全国平均より約30%少ない。)」また「理科が好き、理科は大切だと思う生徒の割合は全国平均より低い。(5%程度)」(平成30年度全国学力・学習状況調査)
- ✓ 日本は「理科は楽しい、理科を勉強すると日常生活に役立つ、と思う生徒の割合が他国と比較して低い。(OECD平均と比較して、楽しいと思う生徒は約15%少なく、役立つと思う生徒は約10%少ない。)」対して、授業中に騒がしかったり、生徒が先生の言うことを聞いていなかったりすると答えた割合は他国と比較してかなり低い(OECD平均約30%に対し日本は約10%)。(IEA国際数学・理科教育動向調査TIMSS2015)
- ✓ 京都府教育委員会では、平成31年度小中学校理科指導の方向性として、「観察・実験、体験の充実」「教員の理科の授業づくりや観察・実験等に係る指導力の向上」を重点の1つとしている。(平成31年度指導資料)